

しが発低炭素ブランド募集説明会・CO2削減貢献量算定講習会
企業がCSRとして貢献量評価に取り組む意義

立命館大学 橋本征二

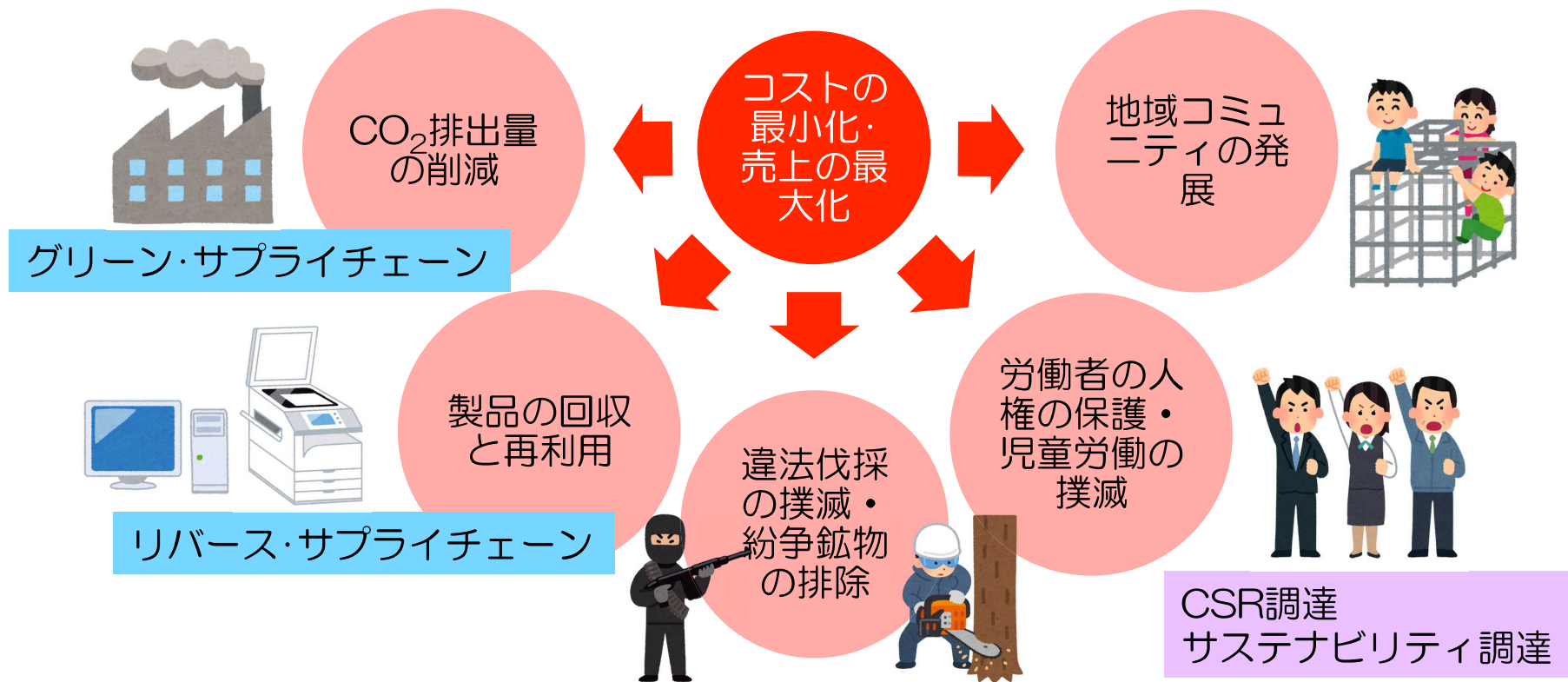
内容

- CSRに関わる近年のトピックス
 - サプライチェーン管理に対する要求の高まり
 - 組織のGHG排出量の算定・報告に対する要求の高まり
- 貢献量評価に取り組む意義
- 貢献量評価に関わる動向
 - 国際的な取組
 - 国内における取組

CSRに関する近年のトピックス

□ サプライチェーン管理に対する要求の高まり

- サプライチェーン管理＝材料や部品の調達から製造、出荷、流通、販売などのサプライチェーン(供給連鎖)を効率化・最適化するための経営手法



CSRに関する近年のトピックス

- サプライチェーン管理に対する要求の高まり
 - 持続可能な調達に関する手引「ISO20400」発行(2017)
 - 社会的責任に関する手引「ISO26000」発行(2010)

ISO26000で示されている7つの原則

- **説明責任**：組織の活動によって外部に与える影響を説明する。
- **透明性**：組織の意思決定や活動の透明性を保つ。
- **倫理的な行動**：公平性や誠実であることなど倫理観に基づいて行動する。
- **ステークホルダーの利害の尊重**：様々なステークホルダーへ配慮して対応する。
- **法の支配の尊重**：各国の法令を尊重し順守する。
- **国際行動規範の尊重**：法律だけでなく、国際的に通用している規範を尊重する。
- **人権の尊重**：重要かつ普遍的である人権を尊重する。

サプライチェーン
に関するリスク?



CSRに関する近年のトピックス

□ サプライチェーン管理に対する要求の高まり

- サステナビリティ情報の開示に関する手引き「GRIスタンダード」の発行(2016)



102-9	サプライチェーン
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置

CSRに関する近年のトピックス

- サプライチェーン管理に対する要求の高まり
 - G7エルマウ・サミット首脳宣言での言及(2015)

安全でなく劣悪な労働条件は重大な社会的・経済的損失につながり、環境上の損害に関連する。グローバル化の過程における我々の重要な役割に鑑み、G7諸国には、世界的なサプライ・チェーンにおいて労働者の権利、一定水準の労働条件及び環境保護を促進する重要な役割がある。

我々は、サプライ・チェーンの透明性及び説明責任を向上させるため、我々の国で活動し又はそこに本拠を置く企業に対し、例えば自発的なデュー・ディリジェンス計画又はガイドなど、そのサプライ・チェーンに関するデュー・ディリジェンスの手続を実施するよう奨励する。



Due(当然の、正当な)
Diligence(勤勉、精励、努力)

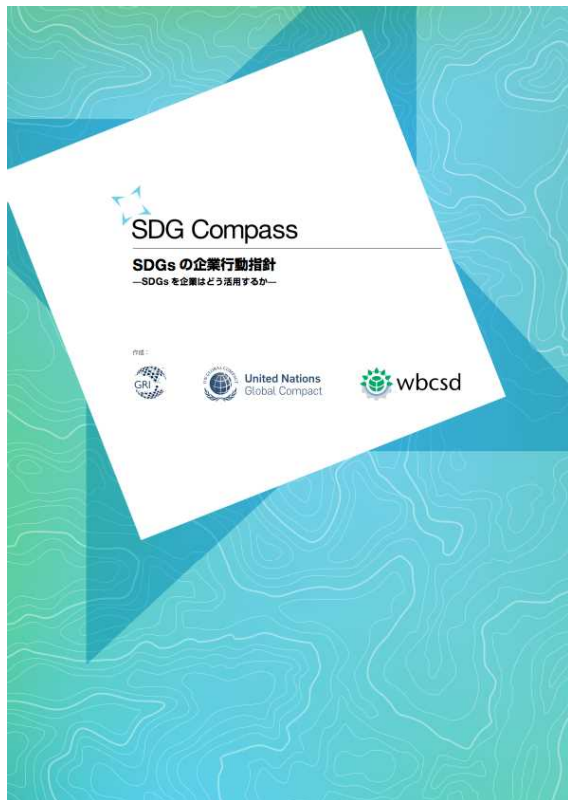
CSRに関する近年のトピックス

- サプライチェーン管理に対する要求の高まり
 - 持続可能な開発目標(SDGs)の採択(2015)



CSRに関する近年のトピックス

- サプライチェーン管理に対する要求の高まり
 - 持続可能な開発目標(SDGs)の採択(2015)
 - SDGsの企業行動指針である「SDGコンパス」の発行(2015)



SDGsは、なぜ企業にとって重要か

- 将来のビジネスチャンスの見極め：SDGsは、地球規模の公的ないしは民間の投資の流れを、SDGsが代表する課題の方向に転換することを狙いとしている。
- 企業の持続可能性に関わる価値の向上
- ステークホルダーとの関係の強化、新たな政策展開との同調：SDGsと経営上の優先課題を統合させない企業は、法的あるいは評判に関するリスクに益々さらされるようになる。
- 社会と市場の安定化
- 共通言語の使用と目的の共有

CSRに関する近年のトピックス

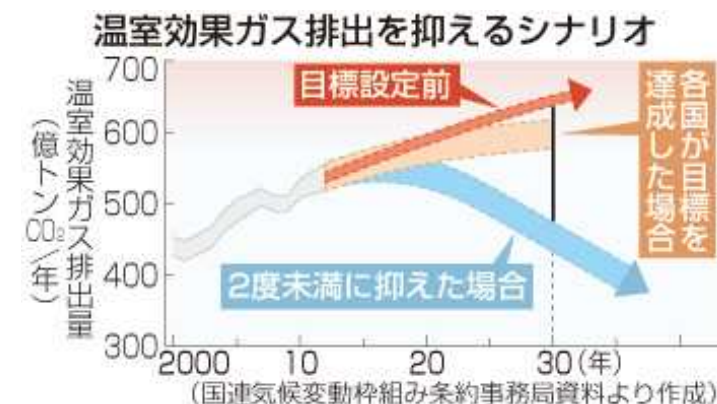
- 組織のGHG排出量の算定・報告に対する要求の高まり
 - パリ協定の採択(2015)・発効(2016)

世界共通の長期目標

- 世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2°C より十分低く保ち、 1.5°C に抑える努力をする
- そのため、できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と（森林などによる）吸収量のバランスをとる

日本の目標

- 2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減



CSRに関する近年のトピックス

- 組織のGHG排出量の算定・報告に対する要求の高まり
 - GHG排出量の算定・報告の世界的な基準・ガイドラインである「GHGプロトコル」における「Scope 3基準」の発行(2011)

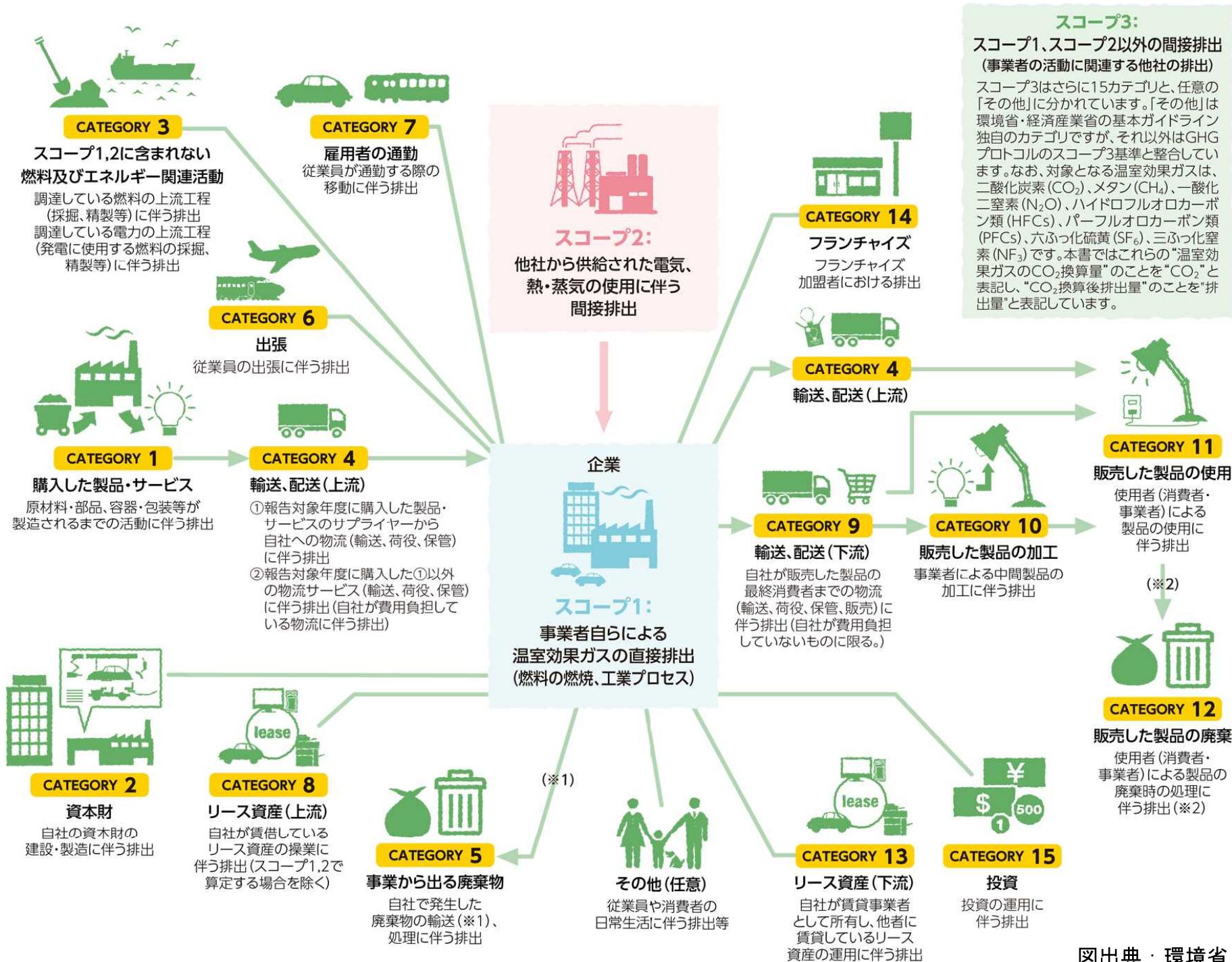


GHGプロトコル

- 企業の基準
- 企業のバリューチェーン(Scope 3)基準
- 製品のライフサイクル基準
- プロジェクト・プロトコル

算定の範囲

- Scope 1：企業の直接排出
- Scope 2：エネルギー利用に伴う間接排出
- Scope 3：その他の間接排出



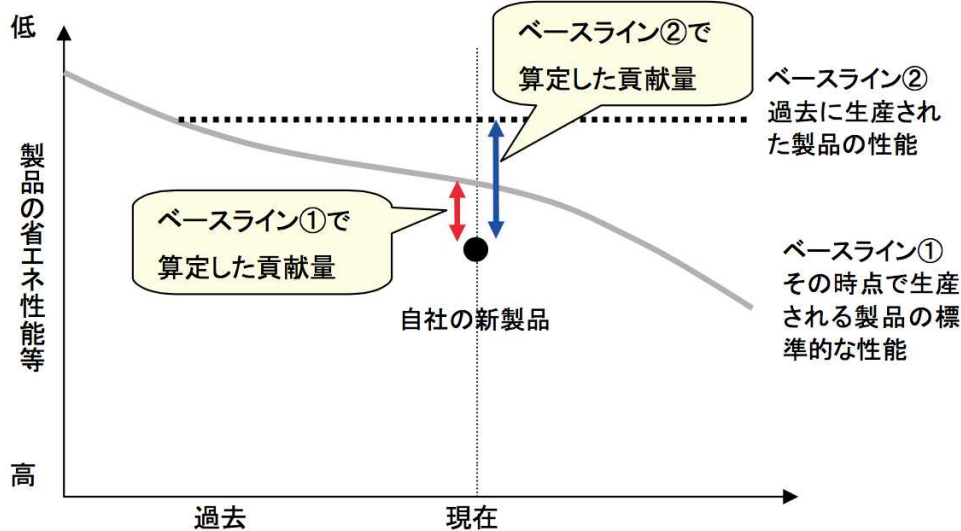
図出典：環境省

貢献量評価に取り組む意義



低炭素化(に関わる)製品を作っているが
その貢献は評価されないのか？

貢献量評価 = その製品がなかった状態を想定した評価



貢献量評価に取り組む意義

□ 企業にとっての意義

自社の製品のGHG排出削減に対する貢献量を評価



自社の社会貢献の状況を定量的に把握しアピールすることが可能



自社および自社製品の広報になり、社会的地位も向上

□ 社会にとっての意義

日本企業は様々な低炭素化技術を保有



日本企業の製品やサービスが使用・導入されることで
世界の排出削減に貢献可能



GHG排出削減に対する貢献量を適正に評価することが必要

貢献量評価に関わる動向

□ 国際的な取組

➤ ガイドライン・方法論の策定



- International Telecommunication Union(2012)
Methodology for the assessment of the environmental impact of information and communication technology goods, networks and services (ITU-T L.1410:2012)



- International Council of Chemical Associations / World Business Council for Sustainable Development Chemicals(2013)

Addressing the avoided emissions challenge: Guidelines from the chemical industry for accounting for and reporting greenhouse gas emissions avoided along the value chain based on comparative studies



- International Electrotechnical Commission (2014)
Guidance on quantifying greenhouse gas emission reductions from the baseline for electrical and electronic products and systems (IEC/ TR 62726:2014)

貢献量評価に関わる動向

□ 国内における取組

➤ ガイドライン・方法論の策定

- 川崎市：域外貢献量算定ガイドライン(2012)
- 日本化学工業協会：CO₂排出削減貢献量算定のガイドライン(2012)
- 滋賀県：滋賀県製品等を通じた貢献量評価手法～算定の手引き(2013)
- グリーンIT推進協議会調査分析委員会：グリーンIT推進協議会調査分析委員会総合報告書(2008年度～2012年度)～低炭素社会に向けたグリーンITの貢献(2013)
- 日本LCA学会：温室効果ガス排出削減貢献量算定ガイドライン(2015)

